

◎ 博物館事業について(市民部文化振興課 博物館)

1 施策の概要

文化は日々の暮らしに豊かさと潤いを与えてくれるものであり、また、人と人の交流を生むなど、地域の活性化にも大きな役割を果たしている。

芸術文化に関する施策については、平成 13 年に施行された「文化芸術振興基本法」のもと、心豊かな生活と、活力ある社会の実現に向けた取り組みがなされてきたが、グローバル化や少子高齢化等の社会情勢が著しく変化する中、平成 29 年に法律を一部改正し、「文化芸術基本法」が制定された。新法では文化芸術の新たな価値の創出や観光やまちづくり、国際交流等といった幅広い分野との連携や協働が求められている。

本市では、「第五次富士市総合計画」や「富士市教育振興基本計画」に基づき、文化振興施策を進めてきたが、文化に関する基本的な考え方と施策の方向性を総合的・体系的に示すため平成 25 年に「富士市文化振興基本計画」を策定している。

本計画では、「こころ豊かな人を育てる文化のまち」を基本目標とし、文化に親しむ機会の充実や文化活動等に関する情報の提供等を目標に掲げている。そのような中、平成 28 年には博物館本館を「富士山かぐや姫ミュージアム」としてリニューアルし、富士山と富士市に伝わるかぐや姫伝説を中心に、郷土の歴史や文化を伝えている。

2 施設の概要

(1) 本館

名 称	本館「富士山かぐや姫ミュージアム」
住 所	富士市伝法 66 番地の 2
開 館	昭和 56 年 4 月 25 日
改 修 落 成	平成 28 年 4 月 29 日
敷 地 面 積	約 4,951 m ² (付属棟実習室、工芸室含む)
延 床 面 積	本 館 (1,740 m ²) 付属棟 実習室 (200 m ²)・工芸室 (248 m ²)
開 館 日 等	夏期 (4 月～10 月) 9 時から 17 時 冬期 (11 月～3 月) 9 時から 16 時半 休館日は月曜日 (祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
常 設 展 示	展 示 室 1 「富士に生きる」 富士山南麓の地に生活してきた先人達の歴史や文化を展示
	展 示 室 2 「富士山の玉手箱」 富士山にまつわるテーマを展示
	展 示 室 3 「富士山とかぐや姫」 富士山南麓を舞台としたかぐや姫の伝承と地域に根ざした視点からの信仰の山・富士の姿を展示

	展示室 4	世界文化遺産～富士山～「竹取物語のひろがり」 日本各地の竹取物語ゆかりの地や関連グッズの紹介と富士山 世界文化遺産の紹介
特別 展示	展示室 5	常設展示以外の企画展・共催展・テーマ展等の展示会を随時 開催
	多目的室 6	
	ライブラリー	県内外の博物館の出版物や富士山に関わる専門書・児童書を 揃えるとともに、パソコンで館蔵品や映像資料を検索・閲覧 できるデジタルライブラリーを併設

(2) 分館「歴史民俗資料館」

名	称	歴史民俗資料館
住	所	富士市伝法 66 番地の 2
開	館	平成 6 年 11 月 16 日
敷	地面積	1,665 m ²
延	床面積	歴史民俗資料館 (657 m ²)・収蔵庫 (209 m ²)
開	館日等	本館と同様
常 設 展 示	展示室 1 (1 階)	富士市の海岸の漁村から最北の山村までの人々やその暮らし についての展示
	展示室 2 (2 階)	富士市の歴史や、紙、学校教育、子どもの遊び及び戦争や戦 時中の暮らしについての展示

(3) 分館「屋外展示」

名	称	屋外展示 (広見公園内)
住	所	富士市伝法 46 番地の 1
開	館	昭和 56 年 4 月 25 日
敷	地面積	約 39,688 m ²
延	床面積	樋代官長屋門 (69.2 m ²)、原泉舎 (74.40 m ²) 旧松永家住宅 (180.37 m ²)、眺峰館 (59.01 m ²) 東平遺跡高床倉庫 (18.17 m ²) 東平遺跡竪穴住居 (23.50 m ²) 杉浦医院 (138.60 m ²)、樋代官植松家住宅 (195.00 m ²) 旧独楽荘石倉 (33.00 m ²)、旧稲垣家住宅 (160.39 m ²) 横沢古墳、万葉歌碑、その他 (各碑、道しるべ等)
開	館日等	本館と同様 (休館日は外からの見学は可)

(4) 分館「富士川民俗資料館」

名 称	富士川民俗資料館（稲葉家住宅）
住 所	富士市岩淵 8 番地の 1
開 館	昭和 47 年 3 月
改 修 落 成	平成 30 年 3 月
敷 地 面 積	380.86 m ²
延 床 面 積	稲葉家住宅（90.28 m ² ）・収蔵庫（33.48 m ² ）
開 館 日 等	土・日・祝日（開館時間は本館と同様）
備 考	木造平家建入母屋造茅葺 市指定有形文化財（平成 22 年）

(5) その他の施設

ア 管理施設

名 称	小休本陣常盤家住宅主屋
住 所	富士市岩淵 455 番地
公 開	平成 16 年
敷 地 面 積	990.86 m ² （賃借）
延 床 面 積	249.13 m ²
開 館 日 等	土・日・祝日（開館時間は 9 時から 16 時）
備 考	木造平家建切妻造棧瓦葺 国登録有形文化財（平成 10 年）

イ 収蔵庫

名 称	外部収蔵庫
住 所	富士市伝法 170 番地の 1
竣 工	平成 27 年 3 月
敷 地 面 積	市の他施設と同一敷地内のため不確定
延 床 面 積	428.72 m ²

(6) 博物館のあゆみ

昭和 56 年 4 月	博物館開館
昭和 59 年 9 月	入館者 10 万人を達成
昭和 62 年 3 月	博物館工芸棟が竣工
平成 6 年 11 月	歴史民俗資料館（博物館分館）が開館
平成 8 年 6 月	施設全体の利用者数 50 万人を達成
平成 9 年 3 月	歴史民俗資料館収蔵庫を新設
平成 19 年 7 月	施設全体の利用者数 100 万人を達成

平成 20 年 11 月	旧富士川町との合併により、富士川地方歴史民俗資料館を富士川民俗資料館（稲葉家住宅）と改名し、博物館分館とする。また、郷土資料館を富士川歴史資料館と改名し、博物館収蔵庫とし、小休本陣常盤家住宅主屋を博物館管理施設とする。
平成 23 年 12 月	本館リニューアル基本計画を策定
平成 26 年 3 月	展示リニューアル詳細設計と本館耐震補強実施設計が完成
平成 27 年 3 月	博物館近接地に新収蔵庫が完成
平成 27 年 5 月	本館一時休館（平成 28 年 4 月 28 日まで）
平成 28 年 4 月	リニューアルオープン

(7) 博物館リニューアル

「紙のまちの歴史と文化」をテーマに、多様な展示会や体験・普及事業を行ってきたが、本館棟の耐震強度不足や展示内容を含めた施設の老朽化、収蔵庫の不足といった問題を解消するため、平成 23 年度から博物館整備に関する有識者等からなる展示リニューアル検討委員会を組織し、各室のレイアウトや展示構成及び展示内容の検討を重ねてきた。平成 27 年 5 月からは 1 年間休館し、本館棟を中心とした施設の改修、耐震強度工事を実施し、平成 28 年 4 月 29 日にリニューアルオープンした。

リニューアル後は、既存の収納庫を展示室へと改修して展示エリアを従来の 1.5 倍とし、富士山へ帰るかぐや姫の伝説をメイン展示としている。また、広見公園から直接入館できるように本館 2 階に新たな出入口を設けたため、従来のように有料とすると、入館料を徴収するための人員を配置しなければならないこともあり、人件費を削減し、より多くの方に気軽に来館してもらうために、観覧料を無料とした。

リニューアルの主な内容と経費は下記のとおりである。

<リニューアルの主な内容>

愛称の決定	休館中に行った出張展示で、博物館愛称アンケートと投票を実施し、「富士山かぐや姫ミュージアム」とした。
観覧料の無料化	小人 50 円、大人 100 円だった常設展観覧料を無料化した。
展示の充実化	六所家総合調査によって発見された「富士山縁起」による富士山に帰って女神になるかぐや姫の物語と富士山信仰による展示を新設した。また、旧富士川町との合併に伴う「富士川舟運と渡船」の展示や「富士の災害史」等の新コーナーを作る等、最新の研究成果をもとに展示資料を一新した。

ミュージアムショップやライブラリーの新設	富士山や富士市に関連したオリジナル商品等を販売するショップや、関連書籍 3,000 冊を収蔵した学習室を新設した。また、映像資料や収蔵品データベースを閲覧できる映像ブースも併設した。
広見公園との一体化	本館 2 階に新たな出入口を設けて新しい園路と接続し、広見公園を訪れた来園者がスムーズに博物館へ入館できるようにした。
歴史民俗資料館の新展示	本館棟にあった「紙」の展示を移設し、従来よりも拡張して展示した。また、近代教育の展示を新設した。
外部収蔵庫の新設	本館のリニューアルに先立ち、近郊の市有地内に外部収蔵庫を新設した。また、収蔵庫として利用していた富士川歴史資料館の資料も新収蔵庫へ集約した。

<リニューアルに係る主な委託と工事一覧>

(単位：円)

年 度	件 名	金 額
平成 23 年度	展示リニューアル構想コンサルタント業務委託	4,156,204
平成 24 年度	展示リニューアル設計業務委託（～25 年度）	9,975,000
平成 25 年度	耐震補強実施設計業務委託	11,886,000
平成 26 年度	展示物等制作設置業務委託（～27 年度）	271,080,000
	収蔵庫新築主体工事	29,473,200
	広見公園園路設計業務委託	3,068,280
	広見公園園路整備工事	13,716,000
平成 27 年度	本館特別収蔵庫整備業務委託	29,160,000
	本館消火ガス貯蔵容器交換業務委託	4,892,400
	本館ハロン消化設備改修業務委託	4,860,000
	収蔵資料等輸送業務委託	4,136,400
	本館耐震補強主体工事（建築主体）	117,504,000
	本館耐震補強主体工事（電気設備）	45,360,000
	本館耐震補強主体工事（昇降機設備）	21,492,000
	本館耐震補強主体工事（空調設備）	8,942,400
本館耐震補強主体工事（給排水衛生設備）	7,583,760	
合 計		587,285,644

【出所】館報

3 事務事業の概要

(1) 博物館運営管理事業

本事業は、博物館活動の管理、運営方針に関する業務を行う事業である。

本事業では、博物館の円滑な運営と管理を実施することにより、魅力ある博物館づくりを図ることを目的として、事業の企画立案、運営方針の検討、博物館協議会の開催等に関する業務を行っている。

(2) 博物館展示・教育普及事業

本事業は、展示会等の開催や各種講座、教室、体験等の活動を行う事業である。

本事業では、市民の歴史に関する知識の普及を図ることを目的として、本館にて企画展等の展示会の開催や、型染、手漉和紙といった伝統工芸の体験講座、広見公園内の旧稲垣家住宅を利用した農家の暮らしや年中行事を体感する講座等を開催している。また、小中学校等への学習支援として体験学習や出前講座を行っている。

(3) 博物館調査研究事業

本事業は、歴史、民俗、考古、製紙等の分野における郷土の文化財等の調査、研究をし、資料の学術調査や保存技術の調査に関する業務を行っている。

本事業では、市内や周辺地域の歴史を理解する上で必要な資料を寄贈、購入、寄付等により収集した資料の調査研究、修復、復元、保存整理をしている。また、平成18年度に寄贈された東泉院関係資料を含む4万点以上の六所家の資料の調査、分析を進めており、その成果を随時、情報発信している。

4 平成30年度の業務の実施状況

(1) 自主展観事業

本事業は、郷土の歴史や文化を市民により身近に感じてもらうことを目的として、展示室5や多目的室6等を利用し、会期を区切って特定のテーマの展示を行っている。展示室5は機密性の高い特殊な展示ケースを採用しており、貴重な資料を展示することが可能である。また、主に展示室2を利用し、富士山に関わる収蔵品等を展示する特集展示を行っている。富士・沼津・三島3市博物館共同企画展は、3市で連携して広域的調査研究活動等を行い、共同企画展や講演会を開催している。平成30年度は6回の企画展・テーマ展、5回の特集展示を開催している。

<平成 30 年度開催状況>

事業名		開催期間	利用者数 (入館者数)
企画展・テーマ展	春のテーマ展 「オフダに込められた祈りのカタチ」	平成 30 年 3 月 17 日 ～5 月 20 日	16,543 人
	夏のテーマ展 「富士を掘る-足もとに眠る原始・古代の遺跡-」	平成 30 年 6 月 2 日 ～7 月 16 日	4,643 人
	富士・沼津・三島 3 市博物館共同企画展 「幕末・明治の富士・沼津・三島」	平成 30 年 7 月 28 日 ～10 月 21 日	10,839 人
	富士山世界遺産登録 5 周年記念 「かぐや姫の里と白隠さん」	平成 30 年 11 月 3 日 ～12 月 9 日	5,303 人
	富士市・富士川町合併 10 周年記念・ 富士山世界遺産登録 5 周年記念展 「道具が語るあの日の住まい-富士のふもとのヒトとモノ-」	平成 30 年 12 月 22 日 ～3 月 10 日	8,153 人
	第 56 回企画展 「富士が見守る交流の道」	平成 31 年 3 月 21 日 ～6 月 16 日	14,066 人
特集展示	「小山もと子 -生誕百年記念寄贈品展-」	平成 30 年 3 月 17 日 ～5 月 20 日	16,543 人
	「富士山登山案内絵図 -富士山ガイドマップ-」	平成 30 年 6 月 2 日 ～8 月 26 日	10,245 人
	「小学校と富士」	平成 30 年 9 月 8 日 ～11 月 25 日	11,194 人
	「富士山と、文学」	平成 30 年 12 月 8 日 ～2 月 17 日	7,185 人
	「平成に旅立った富士のふもとの 巨星たち」	平成 31 年 3 月 9 日 ～5 月 19 日	9,370 人

【出所】館報

(2) 各種講座等教育普及事業

本事業は、先人が行っていた生活の知恵や技術を実際に学ぶことを目的として、各種講座や体験学習等を実施している。

ア 工芸棟等を利用した各種体験事業

工芸棟の陶芸室や染色室等を利用し、陶芸教室や古代の体験、郷土の文化である型染体験や手漉き和紙等の各種教室や体験事業を実施している。平成 30 年度は 10 講座を開催している。

<平成 30 年度開催状況>

講座名	開催日	対象	定員	参加人数
陶芸教室 初心者コース	原則毎月 第2日曜日	小学生以上一般	各回15人 (延165人)	延118人
陶芸教室 中級者コース	原則毎月 第2日曜日	小学生以上一般	各回15人 (延165人)	延81人
一閑張入門 初心者コース	7月13日(金) 7月27日(金) 8月10日(金)	18歳以上で3回 出席できる初心者	各回16人 (延48人)	延44人
一閑張入門 中級者コース	7月13日(金) 7月27日(金) 8月10日(金)	18歳以上で3回 出席でき、過去 に参加された方	各回16人 (延48人)	延42人
ミニミニ埴輪 づくり	7月16日 (月祝)	年少園児から 小学生と保護者	親子15組	31人
布ぞうり作り体験	7月28日(土)	小学生以上一般	20人	21人
富士の型染体験	8月4日(土)	小学生以上一般	20人	12人
手漉き和紙	10月6日(土)	一般	30人	2人
親子どきやき体験	11月23日 (金祝)	年少園児から 小学生と保護者	親子15組	35人
古代料理 レストラン	3月21日 (木祝)	小学生以上一般	15人	13人

【出所】館報

イ 旧稲垣家住宅を利用した各種体験事業

稲垣家住宅は、1804年に大淵八王子に建築された茅葺屋根の民家で、平成18年に当家から寄贈を受け、広見公園ふるさと村に移築されたものである。平成21年には静岡県指定有形文化財に指定されている。この住宅を利用して、様々な講座や音楽会等を開催している。

(ア) 農家の食と年中行事事業

年間を通じて農家の暮らしや年中行事を体感できる講座を開催している。受講者の利便性を図り、連続で参加する枠だけでなく、単発で参加できる枠も設けている。平成30年度は10回開催している。

(イ) かやぶき農家の癒しのおんがく会

文化財と音楽を融合させた「知的レクリエーション」の体験の場として、富士市にゆかりのある音楽家や伝統芸能団体と共催し、毎月第3日曜日の午後に様々

なジャンルの音楽会を開催している。平成 30 年度は 11 回開催している。

(ウ) その他事業

稲垣家住宅では、平成 30 年度は上記以外に下記の講座も開催している。

<平成 30 年度開催状況>

講座名	開催日	対象	定員	参加人数
かまど飯を食べよう	6月3日(日) 9月2日(日)	一般	15人	延29人
戦時中の料理	8月9日(木)	小学生と 保護者	20人	12人

【出所】館報

ウ 稲葉家住宅を利用した事業

稲葉家住宅は、18世紀前期に桑木野地区に建築された民家で、昭和46年に所有者が旧富士川町に寄贈し、翌年、現在地に移築されたものである。平成22年には富士市指定有形文化財に指定されている。平成29年5月から修復工事を行い、平成30年3月に完了している。平成30年度はこの住宅を利用して家屋案内や体験事業を開催している。

<平成 30 年度開催状況>

講座名	開催日	対象	定員	参加人数
<稲葉家体験デー> 家屋案内や、手漉き和紙のハガキ作りや富士山折り紙の体験	4月21日(土) 7月21日(土) 3月23日(土)	一般	なし	延81人
<稲葉家夜ばなし> ① 稲葉家の暮らし ② 古代の富士川	① 9月22日(土) ② 10月20日(土)	一般	なし	延24人

【出所】館報

エ 博物館の日

気軽に何度も博物館に足を運んでもらうことを目的とし、平成21年度から毎月第1日曜日を「博物館の日」と位置づけ、事前申込なしに手漉きはがき作りや火おこし体験といった通年のプログラムの他に、張り子ダルマ作り等の季節感あふれる体験プログラムを提供している。平成30年度は11回開催している。

オ 博物館まつり

平成 25 年度までは毎年 3 月末に博物館さくら祭りを開催していたが、広見公園では広見地区によるさくら祭が盛大に開催されることから、平成 26 年度からはバラが見ごろとなる 5 月の第 3 日曜日に博物館まつりを開催している。

平成 30 年度は本館や工芸棟、歴史民俗資料館、公園内歴史ゾーンを会場に、テーマ展や屋外展示等の案内・説明や探検ラリー、博物館ボランティアによる折り紙体験、利用者団体による実演、体験、バザー等を実施している。

カ たんけん！はくぶつかん！博物館の裏側お見せします

平成 28 年度まで開催していた「夏休み実験室」を見直し、博物館の仕事や収蔵庫を見学してもらう事業として平成 29 年度から実施している。平成 30 年度は開催時期を夏休みに変更したこともあり、参加者が平成 29 年度よりも 300 人増加し、335 人が参加している。

キ 各種イベントへの参加

他団体が主催するイベントへ参加し、グッズ等の販売、ワークショップを実施することを通して、博物館を PR している。平成 30 年度は 3 つのイベントに参加している。

<平成 30 年度開催状況>

イベント名と内容	開催日と開催場所	対象	定員	体験者数
<吉原宿場まつり> ・「吉原の明治・大正・昭和 ～電気が変えたまちとくらし～」の展示 ・富士山折紙帽子作り体験 ・宿場缶バッジ体験 ・オリジナルグッズ、図録販売	10 月 7 日(日) 吉原商店街	一般	なし	137 人
<富士市環境フェア> ・博物館の PR ・広見公園バラのサシェ作り体験 ・オリジナルグッズ、絵本販売	12 月 1 日(土) 富士山めっせ	一般	なし	8 人
<なんでも富士山 2019> ・「富士山学びのコーナー」に参加 ・富士山折紙帽子作り体験 ・オリジナルグッズ販売	2 月 23 (土) ～24 日 (日) 富士山めっせ	一般	なし	223 人

【出所】館報

ク 富士山ネットワーク推進委員会活動

本委員会は平成5年に富士山周辺の5つの博物館等によって組織され、富士山をテーマとした企画展の各館同時開催や、コンテストを通して富士山に関する情報発信を行い、相互に連携をとっている。現在は下記の7つの加盟館によって運営されている。

平成30年度は、この委員会の主催事業として「夏休み富士山ぐるりんコンテスト（対象：小学生。内容：夏休み期間中に加盟館における発見や体験、富士山をテーマに作品として表現する。）」と「PR活動（加盟館等のイベントに参加）」を加盟館合同で行っている。

加盟館	裾野市立富士山資料館、富士山樹空の森、富士サファリパーク、奇石博物館、富士山こどもの国、静岡県富士山世界遺産センター、富士市立博物館
-----	--

(3) 六所家総合調査事業

六所家は富士市今泉8丁目に位置する旧家で、明治政府による神仏分離政策によって還俗するまでは富士山東泉院という寺院を営んでいた。平成18年に当主から東泉院関係資料を含む約4万点以上の六所家の資料が富士市に寄贈された。郷土の歴史・文化を解明する貴重な資料を活用するため、平成19年度に六所家旧蔵資料基礎整理委員会を組織し、翌20年から資料の整理を行ってきた。だが、資料の整理に留まらず、学術的な面からも明らかにするために、古文書、書画、富士山信仰、民俗、埋蔵文化財、建造物・庭園の各班からなる総合調査委員会を組織し、その成果を「六所家総合調査だより」や展示会やシンポジウムを通して発信してきた。平成30年度は六所家総合調査の成果を概観し、今後の調査のあり方について意見を聴取した上で、六所家総合調査委員会を閉会した。また、今後の市史編纂事業での利活用に向けて、近代資料の整理方針覚書を寄贈者と締結している。

<平成30年度末における 刊行物一覧>

報告書名等			
六所家総合調査報告書	民俗	六所家総合調査報告書	造園物・庭園
六所家総合調査報告書	古文書①	六所家総合調査報告書	古文書②
六所家総合調査報告書	埋蔵文化財	六所家総合調査報告書	古文書③
六所家総合調査報告書	書画	六所家総合調査だより	特別号
六所家総合調査報告書	聖教	六所家総合調査だより	特別号②
六所家総合調査報告書	埋蔵文化財②	六所家総合調査だより	No.1～No.14

(4) 博物館ボランティアの活動

博物館ボランティアは博物館の活性化と、博物館活動を通じた生涯学習及び自己研鑽の場を目的とし、平成18年度に実施した入門講座や研修講座を終了した14名により誕生した。その後の追加募集により平成30年度末で登録メンバーは25名となり、博物館主催事業や体験学習での指導・補助、館収蔵資料の整理、展示補助等、多岐にわたり幅広い活動を行っている。

5 事務事業の分析

(1) 類似施設へのアンケート調査の実施

事務事業の分析に当たっては、本市と人口が同規模程度で、歴史系の市立博物館を所有する都市に平成30年度の状況についてアンケート調査を実施し、その調査結果を活用して比較分析を行った。アンケート調査を実施した都市の概要は次の表1のとおりである。

【表1】アンケート実施都市の博物館の概要 (単位：人、㎡、日)

都市名		人口	名称	開館	延床面積	開館日数	管理形態
静岡県	富士市	253,410	富士市立博物館	昭和56年	1,740	305	直営
青森県	八戸市	228,724	八戸市博物館	昭和58年	3,767	319	直営
群馬県	太田市	224,271	新田荘歴史資料館	平成21年	1,394	225	直営
埼玉県	草加市	248,813	草加市立歴史民俗資料館	昭和58年	696	308	直営
	春日部市	234,246	春日部市郷土資料館	平成2年	784	289	直営
東京都	調布市	235,805	調布市郷土博物館	昭和49年	841	305	直営
神奈川県	大和市	236,078	つる舞の里歴史資料館	平成10年	263	294	直営
長野県	松本市	238,674	松本市立博物館	昭和43年	3,593	360	直営
福井県	福井市	263,109	福井市立郷土歴史博物館	昭和28年	3,915	327	直営
大阪府	茨木市	281,892	茨木市立文化財資料館	昭和59年	1,913	293	直営
	八尾市	266,593	八尾市立歴史民俗資料館	昭和62年	1,194	150	指定管理者
山口県	下関市	262,255	下関市立歴史博物館	平成28年	2,105	307	直営
徳島県	徳島市	253,000	徳島市立徳島城博物館	平成4年	2,352	300	直営

※人口は平成31年4月1日現在のものだが、八戸市は平成31年4月30日現在のものである。

※太田市の新田荘歴史資料館は、東毛広域圏組合設立の「東毛歴史資料館」が太田市に移管され、平成21年に新たに開館したものである。

なお、改修工事のため12月中旬から3月上旬まで休館であった。

※福井市の福井市立郷土歴史博物館は、平成16年に移転新築している。

※八尾市の八尾市立歴史民俗資料館は改修工事のため、9月1日から2月28日まで休館していた。

※延床面積及び年間開館日数はメインとなる施設の平成30年度の状況である。

(2) 博物館協議会の開催状況（合規性、正確性、効率性の検証）

博物館協議会は、博物館長の諮問に応じ、博物館の事業、運営について専門的な立場や利用者としての観点から意見や提言を述べる役割を担っており、委員の構成や協議会の招集については「富士市立博物館条例」及び「富士市立博物館条例施行規則」

によって定められている。委員の任期は 2 年であり、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者、公募による市民を構成メンバーとして、10 人以内で組織されている。協議会の開催後は議事録を作成し、委員からの意見で対応可能なものはすぐに実施している。

平成 29 年度はリニューアル後の施設の運営管理について詳細な状況を把握するため、委員が現場確認や担当者からヒアリングを実施した。また、静岡県富士山世界遺産センターを視察し、展示手法や運営について比較検討し、平成 30 年度には 3 回の会議を開催し、「施設管理」と「企画展及び教育普及事業等の運営管理」について提言書をまとめ、博物館長に提出している。今後は、提言書を指針として、博物館の今後の事業に活かしていくこととしている。

<平成 30 年度開催状況>

日 付	議題・内容
6 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度本館利用者実績報告 ・平成 30 年度事業計画 ・提言に向けて「展示、各種講座等普及事業などの運営」について
9 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書（案）「今後の富士市立博物館の「施設管理」と「企画展及び教育普及事業等の運営管理」について」
2 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書について（報告） ・平成 30 年度事業実績報告について

(3) 利用者の状況(有効性の検証)

博物館施設の利用者数は、本館については 1 階は職員の実測であるが、2 階は入口の赤外線カウンターにより把握している（カウンター分は 0.7 を乗じた数値）。また、分館や管理施設等の利用者数は、その施設の受付等を委託している団体からの報告により把握している。

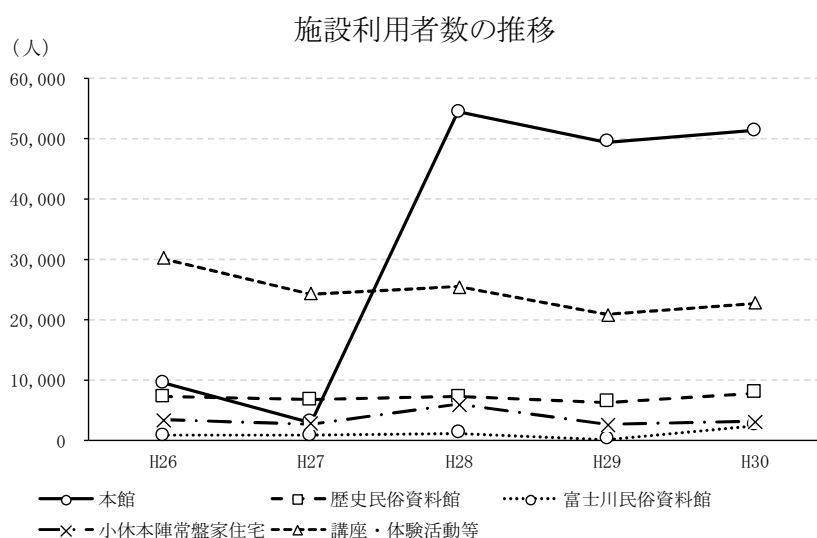
博物館施設全体の利用者数の推移は次の表 2 のとおりであるが、平成 26 年度の 51,617 人に対し、本館リニューアル後の平成 28 年度以降は大幅に増加し、平成 30 年度は 88,165 人となっている。特に本館の利用者数は平成 26 年度は 9,621 人だったものが、リニューアル以降は 5 倍以上の数値で推移し、平成 30 年度は 51,453 人となっている。また、富士川民俗資料館は平成 29 年度は 5 月から修復工事のため休館していたので利用者は少なかったが、平成 30 年度は増加している。小休本陣常盤家住宅主屋は、平成 28 年度は旅行会社の企画するツアーに組込まれたことや、「するがのくのにの芸術祭 富士の山ビエンナーレ 2016」の会場となったため、利用者数が増加している。一方、講座・体験活動等の利用者は減少傾向にある。

【表 2】施設別等利用者数の推移

(単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
本館	9,621	3,081	54,562	49,529	51,453
歴史民俗資料館	7,335	6,747	7,315	6,441	7,983
富士川民俗資料館	948	865	1,311	226	2,599
小休本陣常盤家住宅	3,439	2,748	6,056	2,720	3,248
講座・体験活動等	30,274	24,402	25,580	20,888	22,882
合計	51,617	37,843	94,824	79,804	88,165

【出所】館報



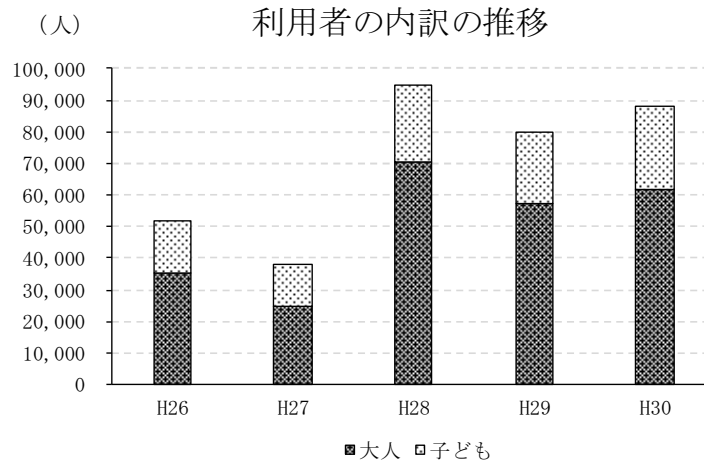
博物館施設利用者数の大人、子どもの内訳の推移を示したものが、次の表 3 である。カウンターで計測している本館 2 階分は大人と子どもの区別ができないので、1 階の実数分の大人と子どもの割合を乗じている。利用者数はリニューアル以降は増加しているが、特に大人の利用者数が増加している。平成 26 年度と平成 30 年度を比較すると、子どもは 10,160 人の増加に対し、大人は 26,388 人増加している。

【表 3】利用者内訳の推移

(単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
大人	35,099	24,792	70,300	57,169	61,487
子ども	16,518	13,051	24,524	22,635	26,678
合計	51,617	37,843	94,824	79,804	88,165

【出所】館報



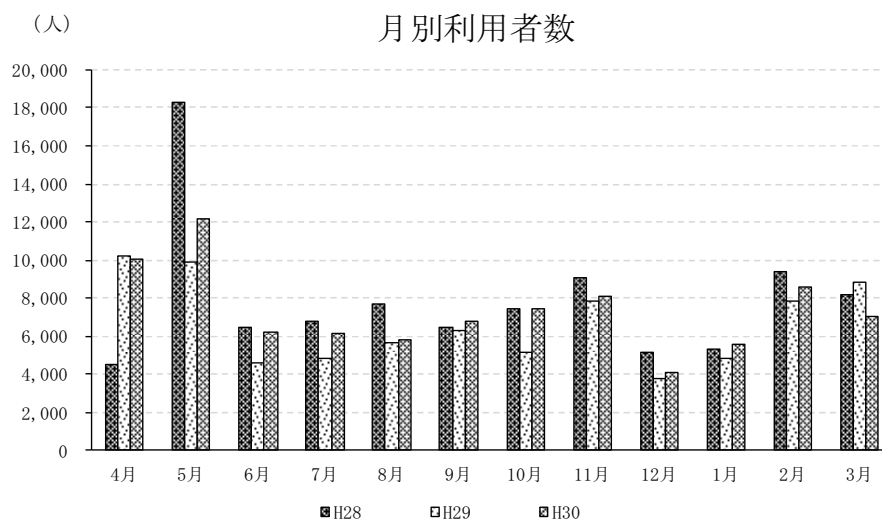
博物館施設全体の月別利用者数を示したものが、次の表4である。平成28年5月は本館をリニューアルしたこともあり、大幅に増加している。例年5月は博物館まつりの開催もあるため利用者が多く、次に4月、11月、2月が多い傾向にある。一方、12月、1月は施設の利用が低い傾向にある。

【表4】 月別利用者数の推移

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成28年度	4,527	18,248	6,465	6,797	7,671	6,446	7,462	9,103	5,134	5,333	9,439	8,199
平成29年度	10,190	9,867	4,570	4,867	5,657	6,335	5,130	7,853	3,748	4,858	7,863	8,866
平成30年度	10,061	12,193	6,243	6,161	5,816	6,814	7,421	8,128	4,121	5,569	8,561	7,077
合計	24,778	40,308	17,278	17,825	19,144	19,595	20,013	25,084	13,003	15,760	25,863	24,142

【出所】 館報

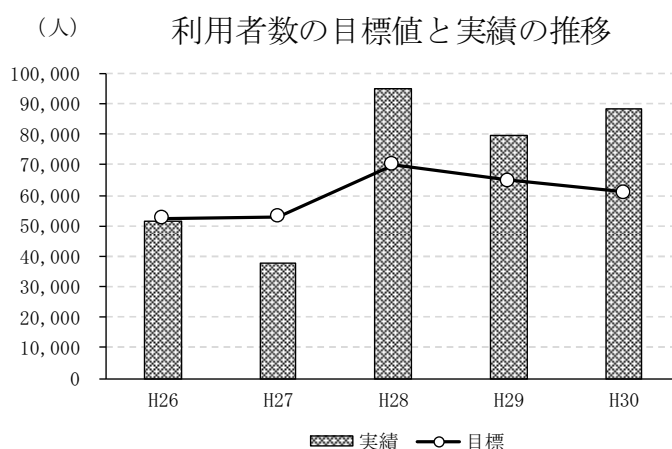


博物館施設全体の利用者数は、富士市教育委員会「自己点検・評価」における評価指標となっており、目標値と実績の推移を示したものが、次の表5である。平成26年度以降の状況を見ると、リニューアル前は目標値を達成していなかったが、平成28年度以降は目標値を大きく上回る利用者数となっている。

【表5】利用者数の目標値と実績の推移 (単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実績	51,617	37,843	94,824	79,804	88,165
目標値	52,600	53,000	70,000	65,000	61,000

【出所】富士市教育委員会自己点検・評価報告書



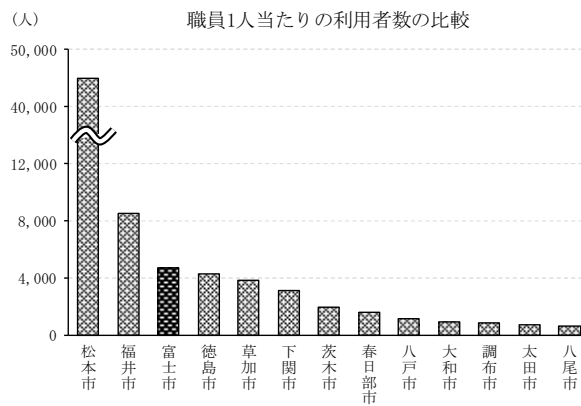
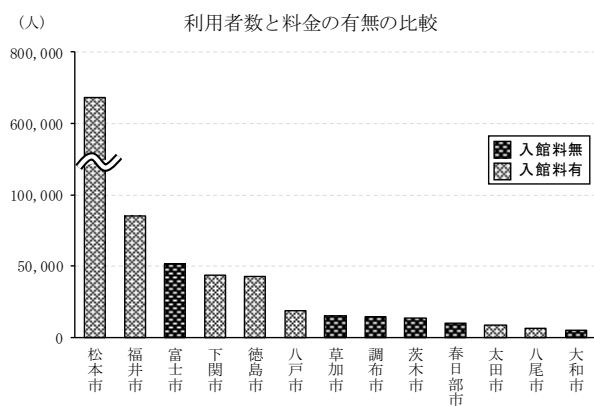
平成30年度の利用者数、料金、職員数を他都市と比較したものが次の表6である。利用者数は各市とも、メインとなる施設の利用者数となっており、料金は、常設展利用時の大人1人当たりの金額である。料金を徴収している都市の金額は200円から300円となっているが、ほとんどの都市で年齢等によって割引や無料化を行っている。また、職員数は正規職員と臨時職員の合計の人数である。

利用者数は、松本市が674千人と突出して多く、富士市は福井市に続き3番目となっている。次に、利用者数と料金の関係だが、本市を除く上位6位までの都市は料金を徴収している。また、職員1人当たりの利用者数も松本市が1番高く、富士市は福井市に続き3番目となっている。本館リニューアル後に利用者数が大幅に伸びていることは、利用料金の無料化の影響が大きいものと考えられる。

【表6】利用者数、料金、職員数の比較 (平成30年度) (単位：人、円)

	富士市	松本市	福井市	下関市	徳島市	八戸市	草加市	調布市	茨木市	春日部市	太田市	八尾市	大和市
利用者数	51,453	674,105	84,810	43,435	42,627	18,486	15,225	14,195	13,701	9,609	8,409	6,195	4,658
料金	無料	200	220	200	300	250	無料	無料	無料	無料	200	220	無料
職員数	11	15	10	14	10	16	4	17	7	6	12	10	5
職員1人あたりの利用者数	4,678	44,940	8,481	3,103	4,263	1,155	3,806	835	1,957	1,602	701	620	932

※八戸市の職員数は分館分も含めた人数となっている。



(4) 物品売払の状況(経済性の検証)

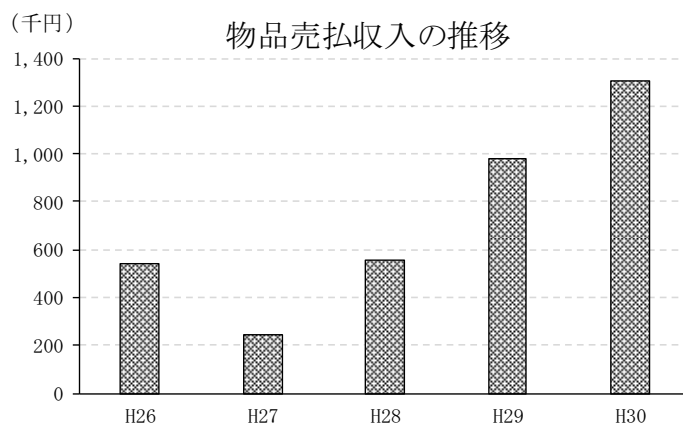
ミュージアムショップ等で販売されている文具等のグッズや図録等の売払収入の推移を示したものが次の表7である。なお、本館のリニューアルを実施してショップができるまでは、事務室で販売していた。平成30年度末の時点でグッズは69種類、図録は150種類を販売している。

リニューアル直後の平成28年度の収入は平成26年度と同程度であったが、平成29年度、平成30年度は収入を伸ばしており、平成30年度は平成26年度の142.7%増となっている。

【表7】物品売払収入の推移

(単位：円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
物品売払収入	537,970	242,720	556,140	979,105	1,305,610



平成30年度に販売された物品等の上位10位を示したものが次の表8である。ミュージアムショップでの販売の他に、本市の他課に販売した分は分けて表記してある。物品の上位3までが、博物館のイメージキャラクター「ふじかぐちゃん」のオリジナルグッズとなっており、10位までの中にかぐや姫に関連したグッズが8種類入っていることから、かぐや姫関連の物品の人気があることが窺える。なお、※印については、市内の観光ビューローや福祉授産所等で販売しているものを購入し、ミュージアムシ

ショップで販売しているものであり、オリジナルグッズの一部の製作は福祉授産所に発注している。また、博物館での販売個数が最も多いものは、湧水ペットボトルとなっている。

【表8】平成30年度 グッズ等販売状況（上位10位）（単位：円、個）

順位	品名	販売価格	博物館販売分		他課販売分		合計	
			販売個数	売上金額	販売個数	売上金額	販売個数	売上金額
1	ふじかぐちゃん クリアファイルA5	100	193	19,300	311	31,100	504	50,400
2	ふじかぐちゃん メモ帳	200	116	23,200	300	60,000	416	83,200
3	ふじかぐちゃん 一筆箋	200	70	14,000	300	60,000	370	74,000
4	※ 湧水ペットボトル	100	305	30,500		0	305	30,500
5	キャンバストート 大 黒	500	116	58,000	83	41,500	199	99,500
6	フリクション蛍光ペン	100	103	10,300	54	5,400	157	15,700
7	※ かぐや姫シール	100	117	11,700		0	117	11,700
8	アクリルストラップ（かぐや姫）	500	85	42,500	2	1,000	87	43,500
9	油性ボールペン	200	81	16,200	2	400	83	16,600
10	※ マグネット（富士山：トールペイント）	120	78	9,360		0	78	9,360
	その他		964	352,130	42	10,000	1,006	362,130
	合計		2,228	587,190	1,094	209,400	3,322	796,590

【出所】富士市立博物館

平成30年度に販売された図録等の上位10位を示したものが次の表9である。ミュージアムショップでの販売の他に、国立歴史民俗博物館に納品した分は分けて表記してある。国立歴史民俗博物館では全国の博物館の図録等を販売しており、その際の販売価格は、ミュージアムショップで販売している金額と同額である。

「常設展示ガイドブック」及び「かぐや姫の里と白隠さん」の販売冊数は共に266冊で、売上数は1位となっている。また、3位はかぐや姫の絵本となっており、物品と同様にかぐや姫関連の書物が売上を伸ばしている。また、※印については企画展等の図録になるが、10位内（11冊）中8冊が該当しており、展示会に因んだ図録がよく売れていることが窺える。

【表 9】平成 30 年度 図録等販売状況（上位 10 位）

（単位：円、個）

順位	図録名	博物館販売分			国立歴史民俗博物館分			合計	
		販売価格	販売冊数	売上金額	納品価格	納品冊数	販売金額	売上冊数	売上金額
1	常設展示ガイドブック	300	257	77,100	240	9	2,160	266	79,260
	※ かぐや姫の里と白隠さん	300	266	79,800			0	266	79,800
3	～絵本～富士山の神様-かぐやひめ	500	70	35,000	395	1	395	71	35,395
4	※ 富士登山列伝	200	24	4,800	160	21	3,360	45	8,160
5	※ 鳥の目で見た富士	300	10	3,000	235	30	7,050	40	10,050
	六所家総合調査だより特別号②	200	40	8,000			0	40	8,000
7	※ 富士山の下に灰を雨らす	400	14	5,600	315	19	5,985	33	11,585
8	※ チョット変だよ！富士市の古墳	400	30	12,000			0	30	12,000
9	※ 富士山縁起の世界	800	25	20,000			0	25	20,000
10	※ ディアナ号の軌跡	400	21	8,400	315	2	630	23	9,030
	※ 吉原宿の鈴木香峰	1,000	23	23,000			0	23	23,000
	その他		355	197,400		63	15,340	418	212,740
	合計		1,135	474,100		145	34,920	1,280	509,020

【出所】富士市立博物館

ミュージアムショップの設置状況を他都市と比較したものが次の表 10 である。ミュージアムショップがあると回答した都市は 13 都市中、本市も含めて 7 都市であった。また、ミュージアムショップがある都市のうち、オリジナル商品があると答えた都市は本市も含めて 4 都市となっている。

【表 10】他市のミュージアムショップ等の状況（単位：都市）

ミュージアムショップ	あり	7	オリジナル商品あり	4
			オリジナル商品なし	3
	なし	6		

ミュージアムショップがあると回答した都市のうち、販売物品の状況を他都市と比較したものが次の表 11 である。販売している物品のうち、最も多いものは「館の展示図録」と「文具類」で、続いて「絵はがき」、「雑貨・小物類」と続いている。本市で販売数が高かった「館のガイドブック」を販売しているのは、本市以外では松本市のみであった。

【表 11】 他市のミュージアムショップでの販売物品の状況（平成 30 年度）

	都市名												
	富士市	八戸市	太田市	草加市	春日部市	調布市	大和市	松本市	福井市	茨木市	八尾市	下関市	徳島市
館のガイドブック	○							○					
館の展示図録	○		○			○		○	○			○	
博物館資料の複製品									○				
絵はがき	○							○	○			○	○
知育玩具・学習玩具													○
一般玩具・ぬいぐるみ								○					
文具類	○		○					○	○			○	○
食料品	○							○					○
雑貨・小物類	○							○	○			○	○
その他			○			○							
オリジナル商品の有無	○							○	○			○	

(5) 企画展等の開催状況（経済性、効率性の検証）

企画展や特集展示等の事業費、開催回数及び延利用者数の推移を示したものが、次の表 12 である。なお、本市では企画展等の料金は徴収していないため、延利用者数は企画展等の開催期間中の博物館本館の利用者数と同数となっている。また、年度をまたいで開催しているものは、開催回数、延利用者数ともに前年度分に集計している。なお、平成 27 年度は 5 月からリニューアルのため本館が閉館しており、公共施設や店舗等で出張展示を開催していたため、参考値とする。

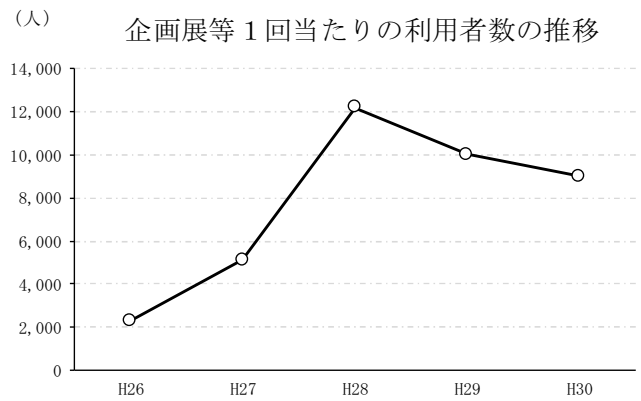
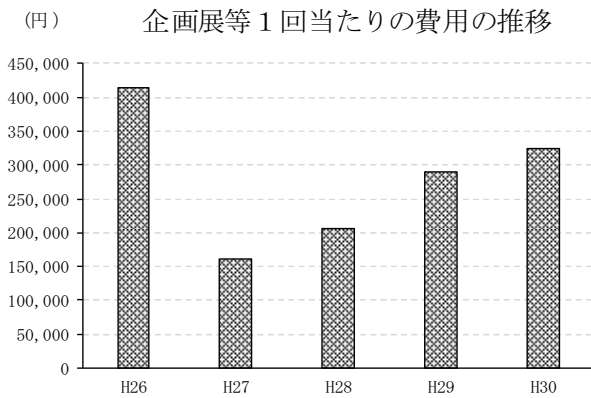
企画展等事業費は、平成 26 年度と比較すると平成 28 年度は 28.5% 増であり、その後は増加している。しかし、企画展等の開催回数が平成 28 年度以降は増加しているため、企画展等 1 回当たりの費用は平成 26 年度が最も高くなっている。

また、企画展等 1 回当たりの利用者数も、平成 28 年度以降は平成 26 年度の 4 倍前後の数値で推移している。

【表 12】 企画展等の事業費、開催回数と延利用者数の推移（単位：円、回、

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
企画展等事業費		2,075,739	1,293,267	2,666,374	2,891,384	2,913,182
開催回数	企画展等	5	0	5	5	5
	特集展示	—	8	8	5	4
延利用者数		11,401	41,016	158,656	99,989	80,998
企画展等1回当たりの費用		415,148	161,658	205,106	289,138	323,687
企画展等1回当たりの利用者数		2,280	5,127	12,204	9,999	9,000

【出所】館報

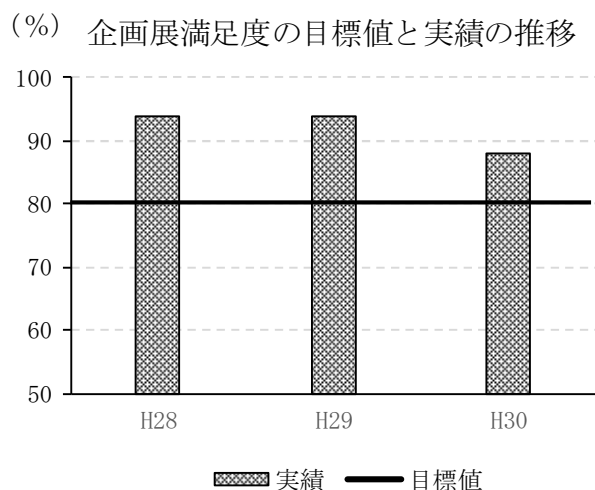


企画展等開催時はアンケート調査を行っており、企画展満足度は「第五次総合計画」における事務事業評価の成果指標となっている。その成果指標の目標値と実績の推移を示したものが、次の表13である。アンケートの結果、企画展が「よかった」「まあよかった」と回答があった割合は、3年間とも目標値を上回っている。しかし、アンケート調査は担当者の意向で実施しており、現状では全ての企画展等で実施しているものではない。

【表13】 企画展満足度の目標値と実績の推移 (単位：%)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実績	94	94	88
目標値	80	80	80

【出所】 富士市立博物館



(6) 教育普及事業の開催状況(効率性、有効性の検証)

平成30年度の各種講座等の定員と参加人数、受講率を示したものが次の表14である。「手漉き和紙」等、受講率が低い講座もあったが、平均すると受講率は77%となっている。

【表14】各種講座等の開催状況（平成30年度）

（単位：人、％）

講座名	陶芸教室初心者	陶芸教室中級者	ミニミニ埴輪づくり	親子どきやき体験	古代料理レストラン	富士の型染体験	手漉き和紙	一閑張入門初心者	一閑張入門中級者	かまど飯を食べよう	戦時中の料理	農家の食と年中行事	稲葉家体験デー	稲葉家夜話	布ぞうり作り体験	たんけん！はくぶつかん！	博物館の日	合計
定員	165	165	30	35	30	20	30	48	48	30	20	200	—	—	20	—	560	1,401
参加人数	118	81	31	35	13	12	2	44	42	29	12	195	81	24	21	335	554	1,629
受講率	71.5	49.1	103.3	100.0	43.3	60.0	6.7	91.7	87.5	96.7	60.0	97.5	—	—	105.0	—	98.9	76.5

【出所】館報

各種講座等の受講率は「第五次総合計画」における事務事業評価の成果指標となっている。その成果指標の目標値と実績の推移を示したものが、次の表15である。受講率は平成28年度が最も低く56%であったが、平成29年度から増加し、平成30年度には目標値を達成している。

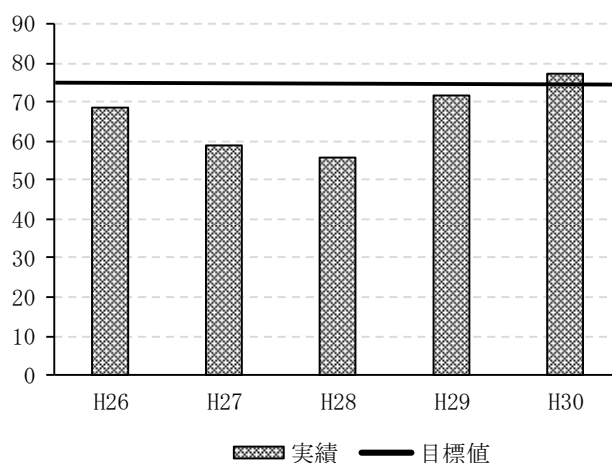
【表15】各種講座等の受講率の目標値と実績の推移

（単位：％）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
実績	68	59	56	72	77
目標値	75	75	75	75	75

【出所】富士市立博物館

受講率の目標値と実績の推移



各種講座等の実施回数、参加人数の推移を示したものが次の表16である。各種講座等の開催回数は各年度とも50回程度である。各講座等には募集定員があるものが多く、参加人数は講座の開催回数が多い年に多くなる傾向にあるが、平成30年度については開催回数が平成28年度と同数であるにもかかわらず、受講者数は70.9%増の1,075人となっている。その理由は、平成29年度から実施している「たんけん！はくぶつか

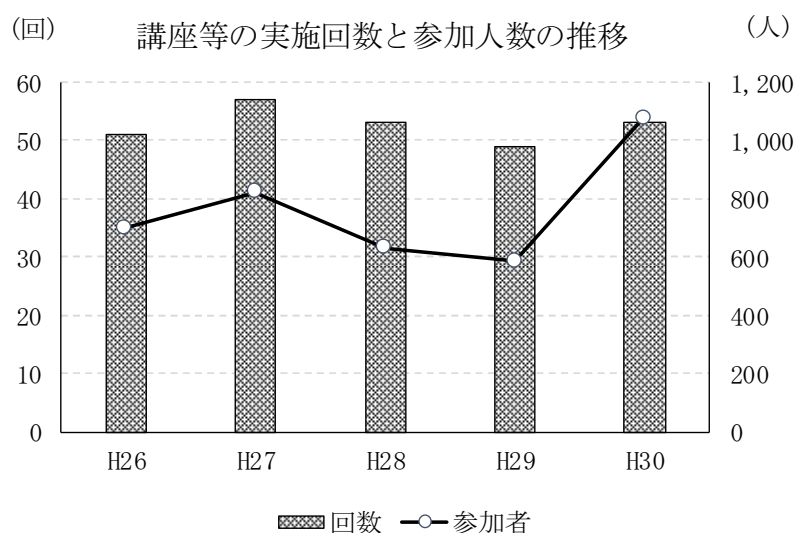
ん！」の参加者数が平成30年度は開催時期を見直し、夏休みに実施したことで335人と大幅に増加したことや、修復工事の完了した稲葉家を活用した体験学習の参加人数が多かったことによるものである。

【表16】各種講座等の実施回数、参加人数の推移

(単位：回、人)

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
チャレンジ!!陶芸	6	96	6	95	5	52	6	40		
陶芸歳時器	6	93	6	64	4	38	6	33		
陶芸室自由開放日	9	119	10	124	8	96	11	89		
陶芸教室									22	199
ミニミニ埴輪づくり	1	31	1	31	1	33	1	30	1	31
親子どきやき体験	2	45	2	67	1	19	1	31	1	35
古代料理レストラン			1	17	-	雨天中止	-	雨天中止	1	13
富士の型染体験	2	37	2	38	2	28	1	20	1	12
手漉き和紙	2	32	4	23	4	15	1	8	1	2
一閑張入門	6	32	6	32	6	10	6	32	6	86
旧稲垣家体験事業	10	144	13	162	14	197	14	247	13	236
富士山とかぐや姫シンポジウム			1	88						
日常の中の富士山			1	17						
古文書読解講座					3	53				
富士山のかぐや姫伝説と風車作り					1	4				
稲葉家体験デー									3	81
稲葉家夜話									2	24
布ぞうり作り体験	1	20	1	19	1	21	1	20	1	21
夏休み実験室	3	42	3	43	3	63				
たんけん!はくぶつかん!							1	35	1	335
葉彩画入門	3	9								
合計	51	700	57	820	53	629	49	585	53	1,075

【出所】ふじの教育



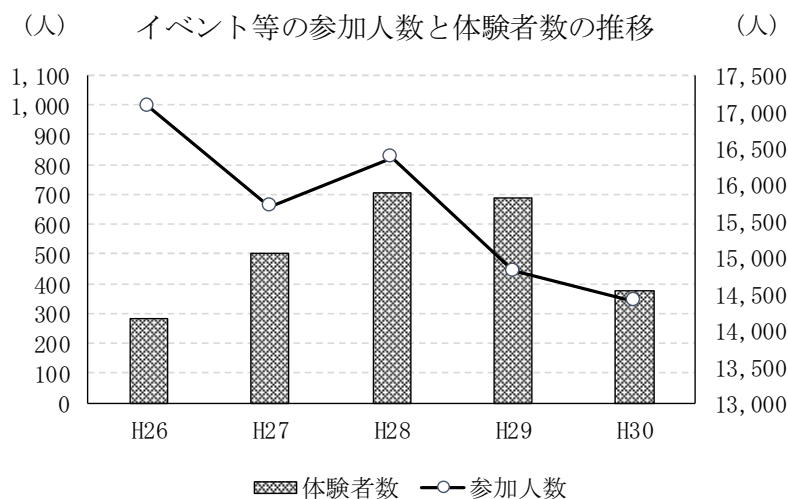
博物館主催のイベントへの参加者数や、博物館が参加したイベントにおけるワークショップ等の体験者数の推移を示したものが次の表17である。

参加者数については、平成26年度はイベントの開催数も多く、参加人数は最も多かったが、その後は減少傾向にある。体験者数については増加傾向にあったが、平成30年度は「富士山紙フェア」の開催がなかったこともあり、減少している。

【表17】 イベント等における参加人数、体験者数の推移 (単位：人)

イベント名	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合計
博物館の日	1,637	1,009	1,051	1,795	1,436	6,928
旧稲垣家住宅茅葺農家体感事業	5,399	4,923	6,166	1,810	4,556	22,854
かやぶき農家の癒しのおんがく会	1,763	1,608	1,726	1,622	1,358	8,077
博物館まつり	7,524	7,764	7,136	8,929	6,271	37,624
富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会企画講座	42	164		209		415
博物館講座 「学芸員が語る富士山の魅力発見！」	139					139
富士山ネットワーク推進委員会活動	239	234	290	451	778	1,992
広見さくら祭り	326					326
小計	17,069	15,702	16,369	14,816	14,399	78,355
吉原宿場まつり (体験者数)	41	181	200	200	137	759
富士山紙フェア (体験者数)	240	320	503	487		1,550
富士市環境フェア (体験者数)					8	8
なんでも富士山 (体験者数)					233	233
小計	281	501	703	687	378	2,550
合計	17,350	16,203	17,072	15,503	14,777	80,905

【出所】 ふじの教育



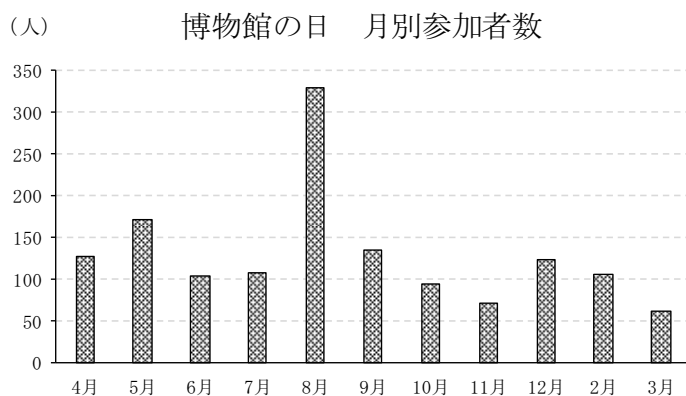
毎月、第1日曜日に開催されている「博物館の日」の平成30年度の開催状況を示したものが次の表18である。各体験の参加率は低いものもあるが、定員を超える体験もあるため、全体的にみると受講率は98.9%となっている。参加者を月別でみると、夏休みということもあり8月が最も多く、11月、3月は少ない状況となっている。

【表18】博物館の日開催状況（平成30年度）

（単位：人）

体験内容	定員	開催日												参加者 合計	参加率
		4/1	5/6	6/3	7/2	8/5	9/2	10/8	11/4	12/9	2/3	3/3			
博物館クイズ	なし	16	14	6	9	20	11	9	16	7	3	9	120	-	
手漉きはがき作り	なし		16			69				40			125	-	
型染しおり作り	なし	9	24	14	15	59	33	15	12	15	15	13	224	-	
火おこし体験	なし	17	25	17	11	28		17	11	12	12		150	-	
古代の弓矢体験	なし	26	39	22	24	52	27	19	17	13	24		263	-	
キューブキャンドル作り	20	23											23	115.0%	
七宝作り	20			30				17					47	117.5%	
ピカピカ泥だんご作り	20					29							29	145.0%	
勾玉作り	20		14			57							71	177.5%	
レジンアクセサリー作り	20								11				11	55.0%	
草木染ハンカチ作り	20	32											32	160.0%	
和紙で作る薔薇のランプシェード	20			3									3	15.0%	
本藍染めハンカチづくり	20						27						27	135.0%	
立体プラバンアクセサリー作り	20											21	21	105.0%	
ガラスのペンダント作り	20						28						28	140.0%	
ディッピングキャンドル作り	20									20			20	100.0%	
折染め団扇作り	20				26								26	130.0%	
張り子ダルマ作り	20										32		32	160.0%	
鋳造ペンダント作り	20							18					18	90.0%	
菊線香作り	20				19								19	95.0%	
万華鏡作り	20		16										16	80.0%	
ろうけつ染めハンカチ作り	20											20	20	100.0%	
和紙のランプシェード	20								4				4	20.0%	
繭玉で作る正月飾り	20									17			17	85.0%	
落水紙で作る薔薇のサシェ	20										21		21	105.0%	
子供の成長記録(手形漉)	15	4											4	26.7%	
コサージュ(和紙工芸)	15		13										13	86.7%	
におい袋	15		11	5									16	53.3%	
いぶし竹うちわ	15				5								5	33.3%	
祝儀袋	15			7									7	46.7%	
預金箱	15					15							15	100.0%	
ランプシェード	15						9						9	60.0%	
合計		127	172	104	109	329	135	95	71	124	107	63	1,436	98.9%	

【出所】館報



小中学校等の団体の見学対応や各種体験学習の受入れをした施設数と延回数、延人数等の推移を示したものが次の表19である。

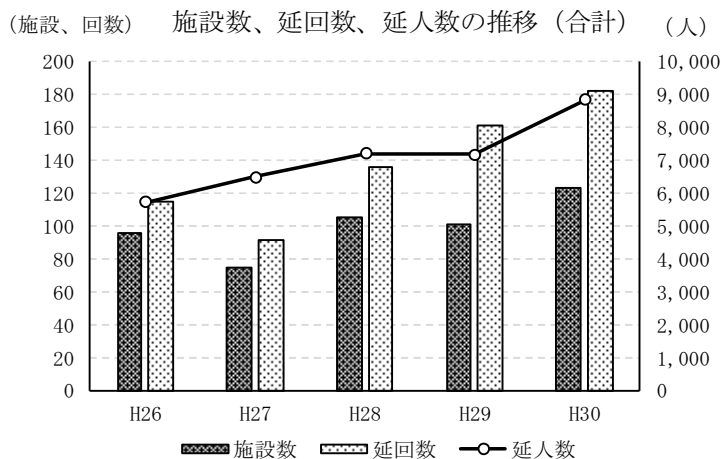
受入施設数、延回数、延人数等については、見学対応、各種体験、出前講座とも概ね増加傾向にある。小中学校の各種体験と出前講座の受入施設数については、平成26年度は24校であったが、平成30年度は42校で75.0%増となっている。これは、学習指導要領の改正により、学校から体験学習や出前講座の依頼が増加しているためである。

また、その他施設の各種体験と出前講座・講演会の受入施設数については、平成26年度は19施設であったが、平成30年度は28施設で47.4%増となっている。これは、各地区まちづくりセンター、まちづくり協議会、地域包括支援センター等へ利用案内を行い、要請件数が増えたためである。

【表19】学校等との連携による体験学習の支援の状況 (単位：回、人、件)

支援内容	26年度			27年度			28年度			29年度			30年度			
	施設数	延回数	延人数等	施設数	延回数	延人数等	施設数	延回数	延人数等	施設数	延回数	延人数等	施設数	延回数	延人数等	
小中学校	見学対応	30	40	2,995	31	38	3,272	31	41	3,320	31	42	2,870	31	53	3,718
	各種体験	19	24	1,599	15	19	1,640	22	28	1,722	23	30	2,105	29	36	2,176
	出前講座	5	5	300	8	8	749	8	8	733	9	9	760	13	15	1,067
	資料貸出	5	6	44	3	5	41	9	14	56	6	29	95	5	14	56
	小計	59	75	4,938	57	70	5,702	70	91	5,831	69	110	5,830	78	118	7,017
幼稚園	見学対応						1	1	55	1	1	60	2	2	270	
	各種体験	1	1	13	2	2	51	1	1	27				2	2	187
	資料貸出	1	1	15				1	1	1	1	1	1	1	1	1
	小計	2	2	28	2	2	51	3	3	83	2	2	61	5	5	458
高校・大学	見学対応													3	3	60
	各種体験				2	2	24	2	2	19				2	2	14
	出前講座							1	1	20	1	1	20	1	1	13
	小計				2	2	24	3	3	39	1	1	20	6	6	87
その他施設	見学対応						6	7	246	3	3	122	6	6	176	
	各種体験	15	18	437	11	15	387	14	18	489	17	29	651	20	35	685
	出前講座・講演会	4	4	170	3	3	330	9	14	524	9	16	503	8	12	421
	資料貸出	16	16	159												
	小計	35	38	766	14	18	717	29	39	1,259	29	48	1,276	34	53	1,282
合計	見学対応	30	40	2,995	31	38	3,272	38	49	3,621	35	46	3,052	42	64	4,224
	各種体験	35	43	2,049	30	38	2,102	39	49	2,257	40	59	2,756	53	75	3,062
	出前講座	9	9	470	11	11	1,079	18	23	1,277	19	26	1,283	22	28	1,501
	資料貸出	22	23	218	3	5	41	10	15	57	7	30	96	6	15	57
	総合計	96	115	5,732	75	92	6,494	105	136	7,212	101	161	7,187	123	182	8,844

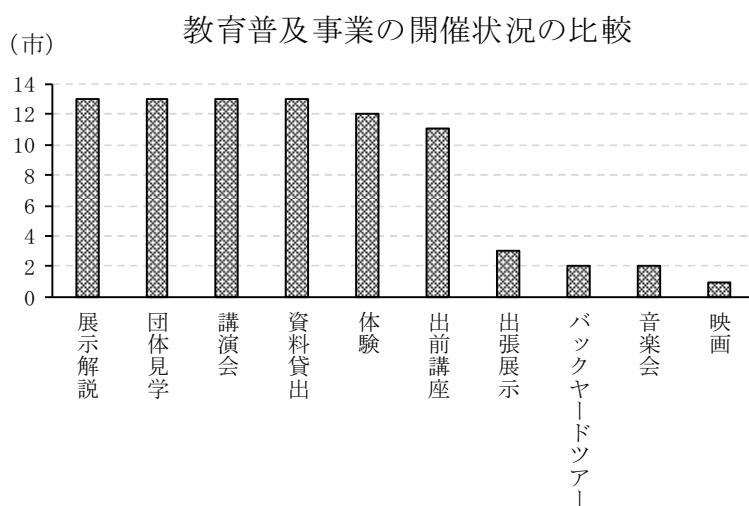
【出所】 ふじの教育



教育普及事業の開催状況を他都市と比較したものが次の表 20 である。「展示解説」、
「団体見学」、「講演会」、「資料貸出」、「体験」はほぼ各市で開催されている。本市で
実施している吉原宿場祭り会場での「出張展示」や外部収蔵庫を会場に『たんけん！
はくぶつかん！』と題して行っている「バックヤードツアー」、旧稲垣家住宅にて実
施している「音楽会」等の観光、芸術活動等と連携した事業を行っている都市は少数
で、これは本市の特徴ある事業展開といえる。

【表 20】 他市における教育普及事業開催状況（平成 30 年度） （単位：都市）

都市名	展示解説	団体見学	講演会	資料貸出	体験	出前講座	出張展示	バックヤード ツアー	音楽会	映画
富士市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
八戸市	○	○	○	○	○	○				
太田市	○	○	○	○	○	○				
草加市	○	○	○	○	○	○			○	
春日部市	○	○	○	○	○	○	○			
調布市	○	○	○	○	○	○	○			○
大和市	○	○	○	○	○					
松本市	○	○	○	○	○	○				
福井市	○	○	○	○	○	○				
茨木市	○	○	○	○	○	○				
八尾市	○	○	○	○	○	○				
下関市	○	○	○	○		○		○		
徳島市	○	○	○	○	○					
合計	13	13	13	13	12	11	3	2	2	1



(7) 資料・図書収集状況（正確性の検証）

寄贈や購入等により、収集した資料の平成30年度末の状況を示したものが次の表21である。なお、移管とは本市の文化振興課等で管轄していたものを博物館で管理することになったものであり、寄託とは保管等のため所有者の所有権を保持したまま博物館が資料を預かっているものである。

平成30年度末の収集資料数は寄贈によるものが多く、次が移管によるものとなっている。内訳としては歴史や民俗に関するものが多く、自然や視聴覚に関するものは少数となっている。

【表21】平成30年度末 収集資料総合計数 (単位：件)

	館所蔵				寄託	借用	合計
	寄贈	購入	収集	移管			
民俗	13,269	89	0	2,091	307	19	15,775
美術工芸	1,091	1,031	0	96	69	15	2,302
歴史	17,537	610	0	1,481	1,322	10	20,960
考古	2,919	3	0	3,615	2	711	7,250
紙関係	1,875	394	0	61	0	22	2,352
自然	25	0	0	98	1	0	124
視聴覚	263	106	204	11	0	0	584
その他	0	1	0	0	0	0	1
合計	36,979	2,234	204	7,453	1,701	777	49,348

【出所】ふじの教育

※視聴覚数には委託制作ビデオを含む
※六所家関連資料、小山もと子関連資料は整理中のため未計上

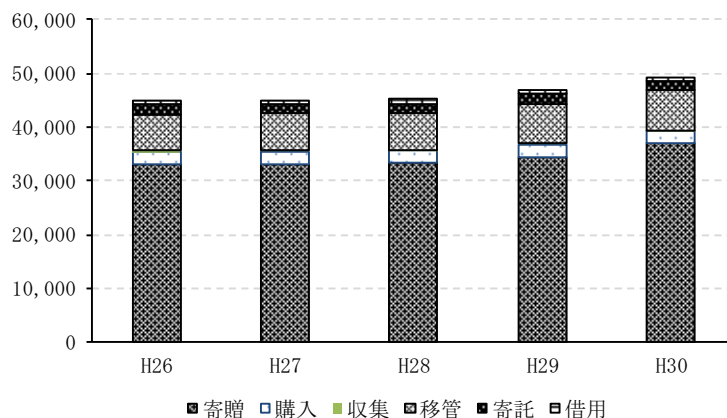
収集資料の年度別推移を示したものが次の表22である。収集資料は平成26年度から5年間で4,417件増加している。内訳としては、寄贈と移管によるものが増加しており、寄託は若干減少している。

【表22】収集資料総合計数の推移 (単位：件)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
館所蔵	寄贈	33,149	33,201	33,391	34,502	36,979
	購入	2,198	2,198	2,226	2,233	2,234
	収集	204	204	204	204	204
	移管	6,888	6,888	6,888	7,453	7,453
寄託		1,720	1,829	1,726	1,848	1,701
借用		772	769	938	746	777
合計		44,931	45,089	45,373	46,986	49,348

【出所】ふじの教育

(件) 資料・図書収集状況の推移



寄贈・移管・寄託等により収集した資料は、整理分類して各収蔵庫に保管されているが、歴史・民俗・考古資料に関する受入資料の基礎台帳への登録率は「第五次総合計画」における事務事業評価の成果指標となっている。その成果指標の目標値と実績の推移を示したものが、次の表23である。基礎台帳への登録率は5年間とも100%であり、目標値を達成している。

【表23】基礎台帳登録率の目標値と実績の推移 (単位：%)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
実績	100	100	100	100	100
目標値	100	100	100	100	100

【出所】富士市立博物館

寄贈資料を受付する際は、「資料寄贈申請書」を申請者から提出してもらい、受贈の決定後は「寄贈資料受領書」を申請者に発行し、台帳に記載した後、資料の種類ごとにデータベースで管理している。また、寄託も同様に「資料寄託申請書」を申請者から提出してもらい、受託の決定後は「資料預り書」を申請者に発行し、台帳に記載し、管理している。

館の収蔵資料を借用する場合は、申請者から「収蔵資料借用申請書」を提出してもらい、貸出の決定後は許可書を発行している。いつ返却があり、誰が返却を確認したかは台帳で管理されている。

館の収蔵資料等を閲覧、撮影、掲載する場合は、申請者から「収蔵資料等（閲覧・撮影・掲載）許可申請書」を提出してもらい、掲載の条件を付して許可書を発行し、台帳にて管理している。

(8) 博物館事業のコストの状況（経済性の検証）

本市の過去5年における博物館運営管理事業、博物館展示・教育普及事業、博物館調査研究事業の事業費及び財源の推移を示したものが、次の表24、25、26となっている。なお、事業費には人件費を含んでいない。

博物館運営管理事業の事業費は、臨時職員の人件費及び博物館施設全体の光熱水費等の需用費が主な内容となっている。

博物館展示・教育普及事業の事業費は、企画展等の開催と各種体験、講座の開催費用が主な内容となっており、平成28年度以降増加している。これは、平成28年度以降は企画展等の開催回数が増加し、事業費が増加していることが主な要因となっている。

博物館調査研究事業の事業費は、六所家総合調査の費用が主な内容となっており、平成30年度は文化財修理の助成が採択されなかったため、資料の修理が実施できなかったことや、調査報告書の作成がなかったため、執行額は減少している。

財源については、図録やグッズ等の販売収益や講座等の参加者負担金が主なものとなっており、助成金収入は平成28年度の（一財）地域創造からの岩淵鳥居講の撮影に対するものだけであった。

【表24】 事業費及び財源の推移（博物館運営管理事業）（単位：千円）

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
財源内訳	一般財源	23,423	21,775	21,857	24,137	22,508
	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	468	211	637	939	909
事業費		23,891	21,986	22,494	25,076	23,417

【出所】 富士市立博物館

※事業費に人件費は含まない。

【表25】 事業費及び財源の推移（博物館展示・教育普及事業）（単位：千円）

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
財源内訳	一般財源	3,249	3,331	4,044	4,386	4,132
	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,319	928	1,117	793	1,096
事業費		4,568	4,259	5,161	5,179	5,228

【出所】 富士市立博物館

※事業費に人件費は含まない。

【表26】 事業費及び財源の推移（博物館調査研究事業）

（単位：千円）

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
財源内訳	一般財源	7,133	4,952	5,822	6,265	4,610
	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1,326	0	118
事業費		7,133	4,952	7,148	6,265	4,728

【出所】 富士市立博物館

※事業費に人件費は含まない。

(9) 施設利用に関する事務の状況（合規性、正確性の検証）

博物館施設の使用の許可を受けようとするものは、「富士市立博物館使用許可申請書（第2号様式）」を提出し、許可を受けることが「富士市立博物館条例」及び「富士市立博物館条例施行規則」によって定められている。また、旧稲垣家住宅の利用については、「富士市立歴史民俗資料館旧稲垣家住宅使用要領」において、使用の許可を受けることが定められている。

博物館の工芸室や実習室の利用に関しては、施設や備品の取り扱いや、ガス窯や電気窯を使用する際の使用温度や緊急時の対応等について、詳細な取り決めを定めて運用している。また、利用者代表者会議を設置し、工芸室等の使用に係る日程調整や施設利用にあたっての必要事項を協議している。なお、電気窯の使用者は、使用許可申請書に使用日を記載し、使用後は陶芸窯使用日誌に基づき、電気代を支払うことになっている。

(10) 来館者アンケートの状況（有効性の検証）

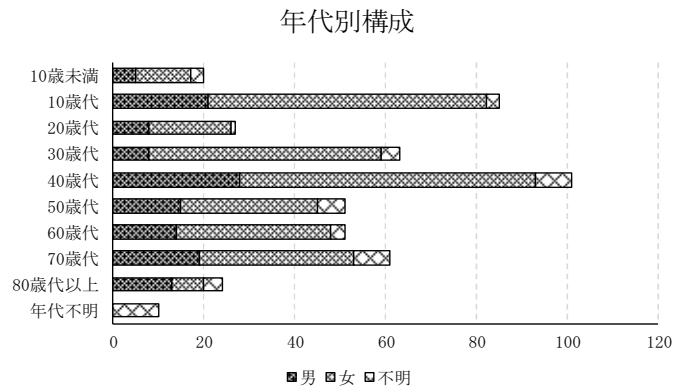
本館の一角に来館者アンケートを置き、施設利用者の声を直接聞けるようにしている。今回の監査によって集計した平成29年12月から令和元年10月分までの493人分のアンケート結果を示したものが、次の表27から31までである。

回答者の年代は40代が多く全体の20.5%を占めており、次は10代で17.2%となっている。居住地は富士市内が多く、全体の42.2%を占めているが、52.1%は県内、県外の方であった。来館目的は複数回答となっている項目だが、「ぶらっと寄ってみた」が一番多く全体の22.1%を占めており、博物館の観覧料金を無料化し、利用のしやすさを求めた結果が表れている。来館回数は、1回目が一番多く全体の70.8%を占めているが、2回目以降の利用者数も28.6%となっている。職員のもてなし、サービスに対して「非常によい」「よい」と回答したのは全体の74.9%にのぼり、満足度は高くなっている。

【表 27】年代別構成 (単位：人、%)

年齢階層	男	女	不明	合計	割合
10歳未満	5	12	3	20	4.1
10歳代	21	61	3	85	17.2
20歳代	8	18	1	27	5.5
30歳代	8	51	4	63	12.8
40歳代	28	65	8	101	20.5
50歳代	15	30	6	51	10.3
60歳代	14	34	3	51	10.3
70歳代	19	34	8	61	12.4
80歳代以上	13	7	4	24	4.9
年代不明			10	10	2.0
合計	131	312	50	493	—

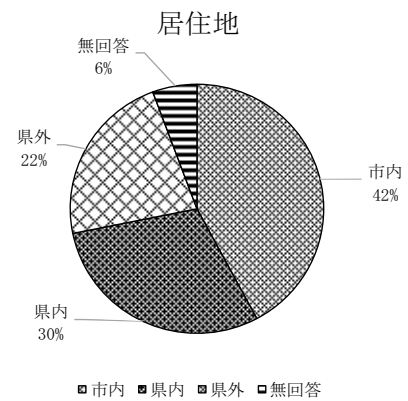
【出所】富士市立博物館



【表 28】居住地 (単位：人、%)

	市内	県内		県外		無回答
		市名	人数	県名	人数	
内 訳		静岡市	30	愛知県	26	
		富士宮市	30	神奈川県	22	
		沼津市	19	東京都	16	
		浜松市	12	千葉県	7	
		三島市	8	埼玉県	5	
		磐田市	4	山梨県	5	
		藤枝市	4	岐阜県	4	
		焼津市	4	兵庫県	3	
		裾野市	3	岡山県	2	
		伊豆の国市	2	新潟県	2	
		掛川市	2	その他	8	
		下田市	2	無回答	11	
		袋井市	2			
		その他	6			
無回答	18					
合計	208		146		111	28
割合	42.2		29.6		22.5	5.7

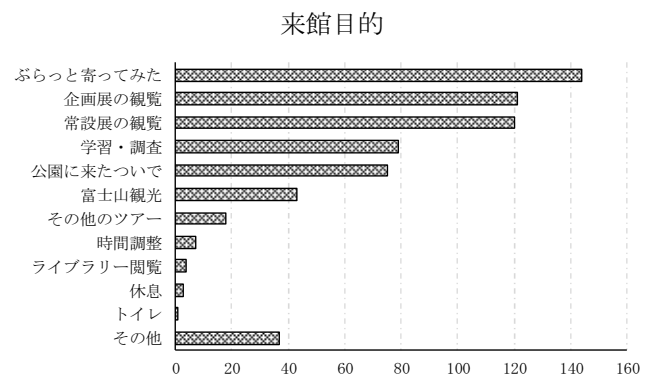
【出所】富士市立博物館



【表 29】来館目的 (複数回答可) (単位：人、%)

来館目的	人数	割合
ぶらっと寄ってみた	144	22.1
企画展の観覧	121	18.5
常設展の観覧	120	18.4
学習・調査	79	12.1
公園に来たついで	75	11.5
富士山観光	43	6.6
その他のツアー	18	2.8
時間調整	7	1.1
ライブラリー閲覧	4	0.6
休息	3	0.5
トイレ	1	0.1
その他	37	5.7
合計	652	—

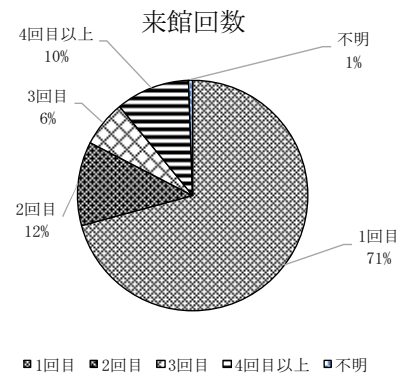
【出所】富士市立博物館



【表 30】 来館回数 (単位：回、%)

来館回数	人数	割合
1回目	349	70.8
2回目	58	11.8
3回目	32	6.5
4回目以上	51	10.3
不明	3	0.6
合計	493	—

【出所】 富士市立博物館



【表 31】 職員のもてなし・サービス (単位：人、%)

満足度	人数	割合
非常によい	203	41.2
よい	166	33.7
普通	101	20.5
あまりよくない	3	0.6
よくない	1	0.2
無回答	19	3.8
合計	493	—

【出所】 富士市立博物館

